

たたかえ! ヒガシヤマン

round13



今回の
敵キャラ

ぱんだ一まん

【必殺技】 さわやかえがお

ヒーロー気どりの肉体派!!
今日もさわやかな笑顔をふりまきながら、
地球の平和を守るため、自慢のキックボードで
パトロール☆…だけど、とっても方向オンチ…
地球はどこだよ?!!

【考案者】 みなくちもえ

東山青少年活動センターのアートスペースに
関わり始めて、早5年?ものづくりが好きで、
メンバーがつくる作品を見るのも大好きです。
至福のひとつときとして楽しみながら、もっと
深く、これからも関わっていきたいです。

ふんばり! シュワッチ!!



©大畑栄里

ヒガシヤマンの返し技

【必殺!!シュワッチ!!】

5月5日/晴れ/きょうは幼なじみのぱんだ一
まんと、家の裏山で練習試合の約束をしたの
だ。ぱんだ一まんと会うのは何年ぶりだろう。
彼は僕と違ってすっかり出世し、今や地球防衛
軍の司令官にまで上り詰めたやり手のヒーロ
ーだ。僕はどうかろう?いままだ丹波橋のヒー
ロー一枚に通い続ける、しがたないヒーローだ。
ヒーローとすら呼べるのかどうか…いや、考える
まい。彼は彼、僕は僕だ。それはそうと、ぱん
だ一まんなは出世した今も方向音痴だけは直ら
ないようだ。そこが彼の憎めないところだが、僕
は裏山で5時間も待たされてしまった。せっかく
彼に喜んでもらおうと、彼の憧れのウルトラマ
ンスーツを着て待っていたのに。寂しいじゃな
いか…
(ヒガシヤマンの日記より)

東山青少年活動センターにひそかに存在するキャラクター・ヒガシヤマン。彼は動揺している!
「は、ははは、ぱんだ一まんの技、まるで見えなかったよ。彼も成長したものだ」
…が、がんばれ、ヒガシヤマン!!

文：筒井加寿子

ヒガシ

VOL. 13

2007 SPRING

もくじ

- 01・たたかえ!ヒガシヤマン
- 02・もくじ
- 03・【特集】東山再発見
- 07・東山schedule
- 08・タイアップ
- 09・ステージサポートプラン
- 11・Higashiyama Youth
- 13・ワークショップななめ読み
- 14・ヒガシガシボランティア募集

空腹を充たすために食べるスナック菓子のように、東山の情報もかじってほしい。ヒガシ(干菓子)のイメージからくる季節感や彩りも添えて。ヒガシガシは、そんな情報誌です。



イラスト

紙本明子【俳優 所属劇団衛星】

劇団衛星HP <http://www.eisei.info/>

東山再発見

特集

小雨の中、商店街をてくてく歩き…見つけました！

建築・デザイン・現代美術・そして、木工。総勢8名の若手作家が活動をしているという共同アトリエ「T-room」。

今回はここをベースにした活動が今年7年目という木工作家、Potitek(ぼちてっく)の戸田直美さん(30)にお話を伺いました。



木工作家
戸田直美さん

●——まず、現在の主な活動について教えてもらえますか？

戸田 家具のオーダー製作と、「木」のことを知ってもらうために木を使ったモノづくり、おもに木のスプーン作りのワークショップを行なっています。

●——木のスプーンづくりですか…、毎回どんな感じで進められているんですか？

戸田 初めてのワークショップは、東山青少年活動センターでやりました。その時は簡単に作れたらありがたいがないのでは、ということで、結構長時間でスプーン作りを行なったんですよ。本格的に。

今は半日で仕上げ、そのスプーンを使って料理を食べるまでをひとくりとして行なっています。ものを「完成させること」が第一ではなくて、その後どう愛着を持って使ってもらえるかが大事だなと感じるようになったんです。なので、ワークショップでは作る、使う、その時間を他の人といっしょに過ごすことを楽しんでもらえるように進めています。

●——ワークショップを続ける理由は何ですか？

戸田 家具のオーダーってそうそう多くの人にとって身近じゃないですよ。結婚や記念日などの何か特別なタイミングだったり、お店を作る時であったり。そんな中出会えたお客さんとは本当にご縁を感じますし、たったひとつの場所のための1対1のやり取りを楽しませてもらっています。でもやはり出会える人数は限られてしまって。家具だけじゃなくて木のこと、モノづくりのこと…もっといろんな場面で人に出会ったら、生の声も聞けるし自分のやる気の素にもなるなと思うんです。

●——展覧会もされてるんですね？

戸田 はい。続けてやったこともあるんですけど、今は年に1回ぐらいです。

●——毎回場所が違うのはなぜですか？

戸田 場所ごとにオーナーさん、環境、空間、演出の違いを感じたいし、「ゆるやかな変化」を受け入れつつ続けていきたいという思いを持っているので。

展覧会は、「素敵な場所があれば行ってみようかなあ」という、家具たちを連れての「旅」のようなものなんです。会場の風景の一部に私たちがお邪魔する感じ。それぞれの会場に似合う家具を選んで連れて行くんです。いろいろな場所に行くことで色々な発見があるし、それを楽しみたいなと思って。

●——戸田さんが木作家になろうと思ったきっかけは何だったんですか？

戸田 小学校3年生の時に家の改装で大工さん、職人さんが来て家を建てているのを見て、それが感動的だったんです。そこで「作る仕事」にあこがれを持ち、漠然と建築関係に進めたら面白いだろうなあという気持ちを持つようになりました。学生時は絵や工作が好きだったので、友達に絵を描いてすごく喜ばれたこともありました。作ることで喜ばれるっていいなあと感じながら、大学での専攻は工芸科に。そこで「木工」に出会い、家具作りができるのかな？と軽く考えてそこで動き始めました。大学院の時には職人の先生と出会ったこともあり、好き勝手に「作る」ことに専念し、でき上がったら終わりというのはいやだなあと感じ始めました。この頃作る仕事でやっていくのは現実的でないと感じつつも、お店の椅子とかを何回か作らせてもらったんです。そしたらいい感じの空間になったんですよ。こういうのっていいなあ、そういう道に行ってみようかなあと思いました。

●——卒業してすぐに就職されたのですか？

戸田 卒業して、しばらくは漆工房に弟子入りしました。木に興味があったので。でも修行するうちに、

自分が思う“一般の人と関わりながら何かを作る”のとは方向が違うのに気づいて。職人さんは本当にすばらしい。でも自分は、職人さんと作家の間くらいにいて、なかなかものづくりの世界と出会う機会がない人達とその世界をつなぐ接着剤のような役割が向いてるのではと感じ、もともと借りていたここ(T-room)で、ひとりで活動をしていくのもありじゃないかと。何とかならんじやないかなあと思って個人で活動を始めることになりました。

本当に人のご縁、周りの方たちの協力で今までやってこれたと思っています。個人で活動すると特に周りの人たちあってこそだなあと感じますね。

●——「木作家」と名乗ることについてどう思いますか？

戸田 自分で「家具工房やっています」「木工できます」ということで、応援してくれる人が増えたように感じます。作家として自分の満足を見せるんじゃないかって、もっと伝えることが役割だと思っています。いいものを作る人はたくさんいる。木の楽しさを伝えながら、周りにがんばってモノづくりをしている人たちがいること自体を知ってもらえるきっかけになったらいいと思います。あと、「決める」っていうこと自体が大事らしいですよ。「〇〇作家」って名乗ることもそうなんですけど、それだけで全然違う。私たちは「木の楽しさを伝える」と決めて活動してます。これはワークショップをするようになってはっきりした気がしますね。



●——potitek(ぼちてっく)の名前の由来は？

戸田 「ぼち」は自分のあだ名です。木作家として何か屋号があるだろうとなった時に、木工所のおじさんの「ぼちてっくはどうや？」のひと言を受けて、その場が異様に盛り上がったんです。そのインパクトに勝てるものはないなあ。正直はじめはしぶしぶ使っていたんですけど、その名前にいろいろな意味を見つけるようになって…。例えばものを納めた時点で終わり、じゃなくて何か生活の中にあり続ける、ずっとあとあと続いていくものを表現したときに「。」(まる)ではなく、「」(ぼち)の方が可能性があるんじゃないかと思うんです。「」のようにささやかな、気の利いた存在として活動できたらなあという想いをそこに乗せられるようになりました。それと、potitekの真ん中にあるtitは英語の赤ちゃん言葉で「おっぱい」の意味なんです。現在potitekは縁あって矢部奈津子さんという女性と活動していて、「女性」に強くこだわらなければならないんですけど、今のpotitekだからこそできることをやっていけたらいいなあと思ようになって。後付けなんですけど、いい意味が盛りだくさんなんです。



●——全ての活動で大事にしていること、こだわっていることは何ですか？

戸田 スプーン教室や展覧会はひとつの旅のように演出したいと思っています。家具は「しっかり作る」。構造もだけど、「一生懸命しっかり作る」ことかな。あと、作るものはテーブルとイスがメインなんです。テーブルとイスって、人が集まるところの中心になるじゃないですか？ そういうものを作りたいなあと思うんです。あとは、気の利いたものを少しづつ作りたいたいと思いますね。

●——人が集まるところの中心ですか。ワークショップも人が集まるところですし、お話を伺っていると、戸田さんは人との出会いに感謝したり、ウキウキされてる感じが伝わってくるんですけど、そのウキウキできる源って何でしょう？

戸田 为什么呢… 教室などをしてしていると確かに初めての人と会うことが多いですね。人は、絶対自分にはない何かを見せてくれるし、どんな人なんだろうって知りたい気持ちが強いんでしょうかね。確かに家具作りだけでは頼りなかった気がします。性格的にも持たない気が…、しゃべりたくて、しゃべりたくて(笑)。

●——では、戸田さんにとって「木工」とは？

戸田 木工とは…、「楽しみ」である。大変なこともあるけど、楽しさを伝えたいですから。

●——これからの目標を教えてください。

戸田 家具作り、スプーン教室を細々とでもいいから続けていきたいです。自分の環境が変わる中で全て同じようにはいかないけど、この恵まれた環境…、理解ある大家さん、アトリエの仲間などはまた一から作れるようなものではないので、環境の変化を柔軟に楽しみつつ、木のことでやっていきたい、やれる方法を考えたいですね。今は木の楽しさを同世代の女性たちに伝える、など「今だからできること」をしているけど、50歳になったらまた違う自分らしい事をしていきたいですね。

●——ありがとうございました。

戸田さんやpotitekの作品と出会えます!!

☆「あじきろじ」にて月1回第4日曜日(5月27日より)

家具の相談と小物を見てもらえる場所を作ることになりました。

☆「日々の器展」6月4日～10日 吉田山茂庵 碧山居にて11:00～19:00(最終日16:30まで)

喜多村朋太さんとの共同展覧会。喜多村さんの素敵な陶芸作品とpotitekの木の小物たちが並びます。

番外編

Q 正直、「もう木工なんてやめてやるー！」って思ったことはありますか？

A やめてやる！はないですね。

Q ほー、じゃあ、「旅に出たい」とかは？

A しょっちゅうです(笑)。展覧会前とかは特に。

Q 好きなことを仕事にしちゃうと、趣味がなくなりませんか？気分転換とか、ストレス解消とかは何をしてるんですか？

A そうなんですよ。趣味がなくて…。探し中です。いまは家族と過ごす時間そのものかな。犬連れて散歩したり。毎日を充実させるのが大事にしてることですね。家の改装とかも楽しんでます！

Q 出勤時間は？

A めっちゃフレックスですー
(T-room 全員でのお答え)

<テーブルでお話を伺いながら>

Q よくこうやってみんなでお茶とかするんですか？

A はい、よくなんやかんや食べてますね(笑)

Q 隣にある炊飯器は…？

A ご飯も食べるんですー(笑)



potitek

<http://www.potitek.com>



【インタビューを終えて】

お話の中で、「楽しくやる」ことが大手に負けない「うちのいいところ」と話す戸田さんの言うとおりに、ゆるーくつながりながら個人でがんばるみなさんが作りだす楽しい雰囲気の中で、お話を伺うことが出来ました。

東山schedule



■ 東山アートスペース2006年度参加者作品展 ～スキ・すき・大好き～

知的な障がいのある中学生から30歳までの青少年が昨年5月から今年の3月までに制作した数々の作品をロビー空間に展示しています。ぜひ、見に来てください！

会 期／4月23日(月)～6月3日(日) 会 場／京都市東山青少年活動センター ロビー

■ 演劇ビギナーズユニット 2007参加者募集

参加したみなさんで一つの舞台を作ります。一度舞台に立ってみたい方。
演劇に興味はあったけど、触れる機会がなかった方。新しく何かをはじめたい方、
新しく何かをつかみたい方。ここに、あたらしい舞台があります、楽しむために来てください！

講座日程：5月17日(木)～9月6日(木)全35回

毎週月・木曜日 18:00～21:00 *7月16日(祝)は15:00～18:00

(講座日程以外に自主練習をする可能性があります)

* 説明会／5月10日(木)19:00～20:30

* 公演日／9月1日(土)・2日(日) * 公演準備日／8月31日(金)

募集期間：4月7日(土)～5月7日(月)

参加対象：京都市に在住か在学・在勤の中学生から30歳までの方で、演劇初心者の方、
またはそれに準ずると思われる方。

募集定員：17名(応募多数の場合は抽選、定員に満たなかった場合は、5月7日以降も先着順で受け付けます)

参加費：30,000円(全35回の講座費用・公演費用一切込)

演 出：あごうさとし(WANDERING PARTY/劇作家、演出家)

申 込 み：京都市東山青少年活動センターへ直接来館、または電話・E-mailにて受け付けます。

講座・公演会場：京都市東山青少年活動センター ミーティングルーム及び創造活動室

共 催：NPO法人 京都舞台芸術協会

■ 中劇研「春の合同公演」 日時：6月9日(土) 10:45～17:30 (予定)

中劇研(京都市中学校教育研究会演劇部会)は、京都市内の公立・私立中学校演劇部の集まりです。今年度は、10校(予定)が日頃の活動の成果を発表します。

この催しは、「学校と青少年施設の連携」事業として、創活番(青少年ボランティア)の協力で実施しています。

タイアップ

『now & then vol.2』、無料配布中!

『now & then vol.2』とは…?

現在、京都で表現活動やものづくり・伝統産業などの分野で活躍中の若い人たち20名に、今の仕事や活動を続けることになった分岐点(ターニングポイント)に関するエピソードを書いていただいたものです。

京都市内の各青少年活動センターで無料配布しています。

*数に限りがありますので、お一人様1冊限定となります。

尚、郵送を希望される方は、140円分の切手を貼り、郵便番号、住所、氏名をお書きいただいた返信用封筒を同封の上、左記住所まで郵送下さい。返信用の封筒は、182mm×116mm(厚さ約2mm)の分岐点が入る大きさのもの(B6版以上)をご用意下さい。よろしくお願ひします。



〒605-0862

京都市東山区清水五丁目130-6

東山区総合庁舎2F

京都市東山青少年活動センター

「now&then」係まで

● 問合せ先 ●

京都市東山青少年活動センター

→ 075-541-0619

→ fromeast@jade.dti.ne.jp



STAGE SUPPORT PLAN

ステージサポートプラン

4月～6月

東山青少年活動センターが自主公演の支援をします。初心者から経験者まで、色んな人たちに東山にある創造活動室を利用して欲しい。だから次のようなグループの公演を応援しようと思いました。

- ① First Trial (活動経験の浅い人たち)
- ② チャレンジ! (何か新しいことに挑戦しようという人たち)
- ③ 東山のおススメ! (京都でがんばって活動している人たち)

★詳しいことのお問い合わせは
→東山青少年活動センターへ

HPでも
ご覧頂けます。

<http://www.ys-kyoto.org/higashiyama>

応募 方法

- *応募には …… まず、担当者にご相談ください。
- *企画書の提出(公演希望日、公演内容やセンターで公演をしてみたい理由を書いてください)
…………… 公演しようとする月の4ヶ月前の20日まで
- *個別面談 …… 応募された全てのグループと面談(応募締切日より10日以内)
- *決定 …… 東山青少年活動センタースタッフとボランティアで選考の上、支援公演を行っていただけるグループを決定。(公演しようとする月の4ヶ月前の月の末日)



■ 劇団再生

「Oz-彼方へ-」

止まった時間を動かすように
舞台を変えて時を越えて
今日は御伽の世界を旅する。
旗揚げ公演 劇団《再生》——

5/13 (日) 14:00

カンパ制(要予約)

○お問合せ… pearly-cheri@hotmail.co.jp

※すべての演劇公演の開場は開演時間の30分前です。



■ プレイングステージワークス

舞台はとある集落。
突然の雨に降り込められ、迷い込んだ
二人。
降りやまない雨の中で起こる脱出劇。
プレイング・ステージが送る最新作は、
モダンホラーの決定版!!

6/14 (木) 18:00

6/15 (金) 18:00

6/16 (土) 14:00/18:00

6/17 (日) 13:00

[前売・当日共] 1,000円

○お問合せ… 050-1416-3345(FAX兼)
090-5062-7084

playingstage@msn.com
playing-stage@docomo.ne.jp

東山青少年活動センターでボランティア活動してみませんか

*「創活番ボランティア」

「創活番」とは東山青少年活動センターで行なう演劇やダンスなどの発表・公演(ステージサポートプラン)のお手伝いをするボランティアチームです。何か新しいことを始めてみたいと思っている方、舞台づくりに関心のある方を求めています。

→ 昨年のボランティア養成講座の様子



*「東山アートスペース ボランティア」

活動日は毎月第3日曜日 10:00～13:00

東山アートスペースは、13歳～30歳の知的な障がいのある人たちの余暇充実を目的としたアトリエ活動です。ボランティアスタッフのみなさんは障がいのあるメンバーをサポートしながら、作品づくりを一緒に楽しんでください。

センターの趣旨を理解し、アトリエ活動を一緒に楽しんでくださる方を求めています。



← 昨年の活動の様子



*「おもちゃの病院ボランティア」

活動日は毎月第2土曜日 13:00～16:30

おもちゃの修理を通して「ものを大切にする心を子どもたちに伝える」という活動のスタッフを募集しています。子どもが好きな方、おもちゃ修理に興味のある方を求めています。



🗨️ ボランティア活動が初めての方も、経験がある方も、新たな分野でのボランティア活動を始めてみませんか？

いずれのボランティア活動も対象は18歳から30歳までの方です。何かしたいけど、どんな活動がいいのかわからない・迷っているという方もお気軽にお問い合わせください。

Higashiyama Youth

東山センターを利用している青少年にインタビュー

今回お話を伺ったのは、センターの創造工作室を使われている「自立のための道具の会・京都」の中山崇さんと野々垣麻由美さんです。

*自立のための道具の会は、立命館大学の学生が主体となって、30人ほどで活動されています。大学生だけでなく、大学院生も一緒に活動されています。

——活動が始まったきっかけは？

イギリスで始まった「Tools For Self Reliance」という運動に共鳴した人が1993年に名古屋で立ち上げた「自立のための道具の会」に立命館大学の教授が参加していて、その教授が1995年に学生を集めて活動を始めたのが「自立のための道具の会・京都」のはじまりです。

——お二人がそこに参加されたきっかけは？

中山:僕は国際協力に興味があった訳ではないんですけど、高校の時に地域の外国人にかかわるボランティアをしていたんですね。で、大学に入ってこの団体を知って、地域でも活動をしているという点が面白そうで参加しました。

野々垣:私は高校の時から国際協力にちょっと興味があって、そういう事を勉強しようと思って大学に入ったんですよ。それで学部の勉強だけじゃなくてサークルでも国際協力に関する事をできたらいいなと思って探してたんです。そんな時にたまたまこの団体の新歓ブースをのぞいて話を

聞いてみて、実際に発展途上国に行って活動したり、調査や話し合いも中途半端ではなくしっかりやっているのがすごいなあと思って、「入ります!」って、即決しました。

中山:きっかけは人それぞれですね。道具が好きだからって

いう人もいますし。

——きっかけは色々でも団体として目指すものは共通している、という事ですね？

そうですね。大工道具だけでなく発電機や水を得るためのタンクなどを、必要な人に必要な分だけ届ける事で生活をより良くしてもらおう、という理念で全員が活動しています。

——お二人はこの活動を何年くらい続けられているんですか？

中山:3年生なので、3年目になりますね。

野々垣:私も同じです。

——今まで活動を続けていて、何か自分の中で変わったと思う事はありますか？

中山:難しい質問ですね~(笑)NGOとして活動することの難しさかなあ。もともとNGOにはあまり興味がなくて、ただ「すごいなあ」ぐらいに思っていたんですけど、やってみたら案外大変だし思っていたほどキレイなものじゃないんだなって…こういう事はあんまり言わん方がいいのかな(笑)

野々垣:でもそれは私も感じていて、実際に活動をしてみたら色々な問題が出てくるし、考えていけないといけない課題も多くて。でもそれをどうにかしていこうって考えるのが面白いというか、やりがいを感じますね。

——「現実」が見えてきた、という感じですね。普段はどんな活動をされているんですか？

使えなくなった大工道具などを集めるためのピラを地域の商店街に配って、集まった道具をきれいに修繕してスリランカに送っています。他にも、いろんな技術を持った方を本部からお呼びして、たとえば電気の通っていない村に小型の発電機を設置したり、食品が長期保存できるように燻製の技術を伝えたりしています。私たち学生はそのサポートやお手伝いとして、年に2回



スリランカに行っています。週に2回のミーティングで調査内容などについて話し合っています。

—スリランカ以外の国では活動していないんですか？

はい。ずっと同じ国で活動していた方が、つながりや連続性をつくりやすいので。

—センターを知ったきっかけは？

今までは製材所をお願いして道具を置かせてもらって、場所も提供してもらって作業をしていたんですが、そこで活動を続ける事ができなくなってしまったんですね。それで新しい活動場所を探しに京都中をまわったんですけど、なかなか見つからなくて。ようやく去年の夏にここの創造工作室を知って、昨年12月から毎月使わせていただいています。

—センターの雰囲気や使い心地はどうですか？

雰囲気は、いいなーと思います。初めて来た時もすごく丁寧に対応して下さい、毎月の活動の時も気軽に話をさせてもらってます。それに、私たちの他にもいろんな団体に関わっておられるので、ためになるお話も聞かせていただいています。

—創造工作室を使って、「こうだったらいいな」と思う所はありますか？

僕たちの活動にピッタリの場所だと思っているので、特に何も…。ここは、天候に左右されずに使えるので。



—お二人にとって「自立のための道具の会・京都」の活動とは？

中山:大きな鍵、という感じですね。僕は日本史専攻なので、この活動をしていなかったらスリランカや電気のない村や大工道具に出会う事はなかったと思うんですよ。でも道具の会という鍵によって扉が開かれて、見た事もないような世界が見えるようになって。

野々垣:今の私の生活の中でこの活動が占めている割合ってけっこう大きくて、色々考えさせられる事もあるし、成長させてくれるものでもあります。団体も課題はいっぱい抱えていて、自分も団体も共にこれから成長していかないといけないな、と感じています。あと、活動を通して、初めて出会う人ともすぐに仲良くなれるようになりました。

—これからどんな活動をされる予定ですか？

6/24(日)と7/8(日)、それから8月の終わりに、創造工作室でワークショップを開催する予定です。多くの人にスリランカの現状や僕たちの活動について知ってもらう事ができるようなイベントにするつもりです。夏には現地調査にも行く予定です。

—ありがとうございました。

「自立のための道具の会・京都」ホームページ

http://tfsr_kyoto.at.infoseek.co.jp/

workshop

ななめ読み

●概要

冬のぬくぬく手作り教室

「自分サイズのルームシューズ」 を作ろう



このワークショップは、手軽にできるものづくりとして、自分の足型を採るところからはじめ、型紙を製作し、フェルトを裁断し、手縫いでルームシューズを作りあげます。フェルトや縫い糸、飾りなどいくつかの色から選び、「つくる」楽しさを体験していただきました!

[開催日時] 2007年2月17日(土)13:00~17:00

[参加費] 2,500円(材料費込)

[参加者] 9名

[講師] つちながあやさん(Fint,takk! 手づくり作家)

1. 参加者の平均年齢・・・24.5歳

2. このワークショップに参加したきっかけは?

- ・友人に誘われて
- ・チャレンジしたいと思ったから
- ・手縫いが得意だったから
- ・自分サイズのルームシューズが欲しかったから

100%・・・4人 可愛くできたから。
90%・・・2人 まだ片足しか完成していないから・・・
80%・・・3人 あわててしまったから!

4. 教室に参加してみた感想は?

- *アットホームな雰囲気でした!
- *初めは4時間の教室は長くて疲れるかなと思ってましたが、作りだすと集中して、時間が経つのが早かったです。先生が優しくてよかったです。
- *なかなか1人ではできないことなので、教えてもらってよかったです。
- *休日の昼下がりに有意義な時間を過ごすことができました。
- *いろいろな方と出会えて、途中の休憩時間や作っている時にいろんな会話ができるので、ワークショップっていいなあと改めて感じました。ありがとうございました。
- *とても可愛くできたので、次は子ども用を作りたいです。

☆講師のコメント ☆

たくさんの個性的なルームシューズができあがっていく様を見て、私もドキドキ・ワクワクしました。私が思いつかなかったアイデアをみなさんが創り出していく過程にも刺激を受けました。『ものづくり』って本当に楽しい!と改めて実感～。

いつも私が主催している教室では20歳代や30歳代の参加者が多いのですが、今回の最年少参加者は12歳の女の子!留学生の方もいらっしゃいました。みなさんと午後のひとときをご一緒できてとても楽しかったです。

「ヒガシガシ」デザイン・編集 ポランティアスタッフ募集！

この情報誌を一緒に創りませんか？

東山青少年活動センターが季刊紙として発行しているフリーペーパーです。

毎号2000部発行しており、京都の大学や市内7ヶ所の青少年活動センター、カフェ、ギャラリーなどに設置し、若者への情報発信を行っています。

活動内容

- ◎特集の取材・原稿作成
- ◎Higashiyama Youthの取材・原稿作成
- ◎全ページのデザイン
- ◎全ページの校正作業
- ◎製本・発送作業など



活動日は内容に伴って変わります。直接お問い合わせください。

何か新しいことを始めてみたいと思っている方、イラストを描くのが好きな方、地域に出てものづくりの活動をされている方と出会いたい方、編集・デザインに興味のある方…

経験はなくても大丈夫です。

やってみたいと思ったらぜひ東山青少年活動センターまでお問合せください。

TEL 075-541-0619

E-mail fromeast@jade.dti.ne.jp



●編集・発行 京都市／(財)京都市ユースサービス協会

●表紙デザイン 重森 千佳

(財)京都市ユースサービス協会とは…

「若い人たちの社会参加の機会を広げ、責任ある若き市民に成長できるよう、そのために必要な自主的な活動を支援していこう」というユースサービスの考え方をもとに、青少年の持つパワーが社会の中で活かされるためのサポートをしています。